

国際ヒバクシャ医療センター

A 欧文

A-a

1 Ikeoka T, Ando T, Imaizumi M, Ueki I, Usa T, Kawakami A: Moderate to severe nausea in radioactive iodine (RAI) therapy is associated with the RAI dose per body weight and was not prevented by ramosetron. *Endocrine* 46(1):131-137, 2014 (IF: 3.527)
*

2 Ando T, Haraguchi A, Matsunaga T, Natsuda S, Yamasaki H, Usa T, Kawakami A: Liraglutide as a potentially useful agent for regulating appetite in diabetic patients with hypothalamic hyperphagia and obesity. *Intern Med* 53(16):1791-1795, 2014 (IF: 0.967)
*

B 邦文

B-a

1 高島治子, 堀江一郎, 安藤隆雄, 宇佐俊郎, 井下尚子, 川上 純: 非機能性下垂体癌に対してテモゾロミドを投与した1例. *Progress in Medicine* 34(11) : 2080-2081, 2014

B-e

1 黒部由佳, 野崎 彩, 原口 愛, 植木郁子, 堀江一郎, 今泉美彩, 安藤隆雄, 木下直江, 宇佐俊郎, 川上 純: びまん性硬化型乳頭癌の一例. *日本内分泌学会雑誌* 90(2) :539, 2014

2 今泉美彩, 大石和佳, 中島栄二, 世羅至子, 鎌石和男, 山田美智子, 立川佳美, 高橋郁乃, 藤原佐枝子, 杉野圭三, 安藤隆雄, 宇佐俊郎, 川上 純, 赤星正純, 飛田あゆみ: 小児期に被曝した広島、長崎原爆被爆者における甲状腺調査: 甲状腺機能と自己免疫性甲状腺疾患について. *日本内分泌学会雑誌* 90(2) :505, 2014

3 藤江祥子, 高島治子, 野崎 彩, 原口 愛, 池岡俊幸, 安井順一, 植木郁子, 赤澤 諭, 堀江一郎, 古林正和, 安藤隆雄, 宇佐俊郎, 山崎浩則, 川崎英二, 阿比留教生, 川上 純: ミトコンドリア脳筋症の合併が疑われた、DKA 発症 1B 型糖尿病の 1 例. *糖尿病* 57(4) : 315, 2014

4 池岡俊幸, 野崎 彩, 原口 愛, 高島治子, 安井順一, 赤澤 諭, 植木郁子, 堀江一郎, 古林正和, 安藤隆雄, 阿比留教生, 宇佐俊郎, 川崎英二, 山崎浩則, 木下直江, 川上 純: 副腎腫瘍摘出後に高度肥満と血糖コントロールの改善を認めた糖尿病の 1 例. *糖尿病* 57(4) : 310, 2014

5 伊藤達弘, 池岡俊幸, 原口 愛, 植木郁子, 堀江一郎, 安藤隆雄, 宇佐俊郎, 安倍邦子, 川崎英二, 川上 純: 急性心筋梗塞が疑われた甲状腺乳頭癌の心臓浸潤の一例. *日本内分泌学会雑誌* 90(1) : 371, 2014

6 尾曲久美, 高島治子, 堀江一郎, 安藤隆雄, 宇佐俊郎, 川上 純: RI 治療後に呼吸苦を伴う頸部腫脹を認めた、パセドウ病合併の甲状腺乳頭癌の 1 例. *日本内分泌学会雑誌* 90(1) : 312, 2014

7 堀江一郎, 高島治子, 野崎 彩, 原口 愛, 安井順一, 池岡俊幸, 赤澤 諭, 植木郁子, 安藤隆雄, 今泉美彩, 阿比留教生, 宇佐俊郎, 川上 純: 甲状腺癌に対する 131-I 内用療法時の高 K 血症発症のリスク因子. *日本内分泌学会雑誌* 90(1) : 275, 2014

8 長井一浩, 原田 浩, 熊谷敦史, 宇佐俊郎, 高槻光寿, 江口 晋, 大津留 晶, 山下俊一, 宮崎泰司: 自家樹状細胞免疫療法によって細胆管癌を制御し得た HIV キャリアの 1 症例. *日本輸血細胞治療学会誌* 60(1) : 94, 2014

研究業績集計表

教室等名：609 国際ヒバクシャ医療センター

論文数一覧

	A-a	A-b	A-c	A-d	A-e	合計	SCI	B-a	B-b	B-c	B-d	B-e	合計	総計
2014	2	0	0	0	0	2	2	1	0	0	0	8	9	11

学会発表数一覧

	A-a	A-b		合計	B-a	B-b		合計	総計
		シンポジウム	学会			シンポジウム	学会		
2014	0	0	0	0	0	0	8	8	8

論文総数に係る教員生産係数一覧

	$\frac{\text{欧文論文総数}}{\text{論文総数}}$	教員生産係数 (欧文論文)		$\frac{\text{SCI掲載論文数}}{\text{欧文論文総数}}$	教員生産係数 (SCI掲載論文)
2014	0.182	2		1	2

Impact factor 値一覧

	Impact factor	教員当たり Impact factor	論文当たり Impact factor
2014	4.494	4.494	2.247